

世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の価値を考える

期間 27年11月4日[水]～12月2日[水](全5回)

応募締切 10月21日[水]

実施場所 九州国際大学地域連携センター(サテライト・キャンパス)

〒806-0021 八幡西区黒崎3-15-3 コムシティ2階(39ページ地図参照)

申込問合せ先 九州国際大学地域連携センター

〒806-0021 八幡西区黒崎3-15-3 コムシティ2階 TEL: 631-2203 FAX: 631-2204

時間 18:30～20:30

定員 30名

受講料 4,000円

講座概要

実施機関: 九州国際大学地域連携センター

本年ユネスコ世界文化遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産」について、近代日本経済史研究の立場から、「短期間に急速な産業化」の意味を考え、この世界遺産の国際的評価(ICOMOS勧告)を踏まえて価値を考察します。

また、この意義を考えるために、ユネスコ推薦書原案作成委員、文化庁世界文化遺産特別委員会委員としての私の経験の「中間総括」についても言及します。

月 日	テーマ・内容	担当講師
11月4日 (水)	「明治日本の産業革命遺産」概要 8エリア11サイト23構成資産は、どのようなものか。産業遺産、シリアル・ノミネーションという特徴について	九州国際大学 特任教授 清水 憲一
11月11日 (水)	「製鉄・鉄鋼」と日本の産業革命 幕末から1910年頃までの日本の「鉄づくり」における釜石・八幡の果たした決定的な重要性について	
11月18日 (水)	「造船」と日本の産業革命 洋式の軍艦をつくりたいという幕末の挑戦に始まった日本の造船業が世界水準に到達し、貿易立国の海運業と日本の工業化に果たした役割について	
11月25日 (水)	「石炭産業」と日本の産業革命 製塩燃料、輸出品であった石炭が工場用燃料として日本工業化を支えたこと、このために石炭産業の近代化が進み、産炭地は肥前から三池・筑豊に移っていった。	
12月2日 (水)	まとめ 「短期間に急速な工業化」が進展した要因と「鉄鋼、造船、石炭産業」が果たした役割を整理する。登録実現までの10年近い取り組みにおける論議の中で、ストーリー、構成資産が変わっていったことを通して、意義づけの捉え直しを考える。	